

青森市の地域通貨導入におけるターゲット層の検討

ー公衆浴場とボランティア活動への認識ー

堀越恵佑

本研究では、青森県青森市で地域通貨を導入するにあたって設定すべき主なターゲット層について検討する。ここでの地域通貨とは、2023 年に大東文化大学八木原研究室がまとめた「青森市における銭湯文化の継承と課題ー小さな拠点（コミュニティ）づくりと地域通貨の可能性ー」（以下、八木原研究室（2023））にて提案されたシステムを指す。八木原研究室（2023）では、青森市の特徴的な地域産業でありながら利用者数を減らしている公衆浴場の課題と、豪雪地帯でありながら除雪ボランティアの安定的な斡旋ができていない公共の課題を地域通貨によって結びつけ、それにより双方の解決を図ることを提案している。本論文はその主張を支持し、残された課題の一つである地域通貨のターゲット層を検討するため、2023 年の研究結果やこれまでの状況を示すデータによって現状を整理し、地域通貨の導入事例や意識調査のデータ等を用いて検証した。その結果、青森市では公衆浴場と除雪ボランティアの双方において若年層の利用・参加を推進すべきと結論づけ、そのために若年層を主な対象として地域通貨を導入することが適切であると考察した。今後は公衆浴場の利用者に対する意識調査や青森市と地域通貨の親和性について研究を進める必要がある。また、導入事例を参考に、地域内での流通に先んじて地元大学内で地域通貨を発行する実証実験が効果的であると考えられる。